

六甲カトリック教会 教会報



南米ペルー

主任司祭 加藤 信也 S. J.



新教皇レオ 14 世と私がペルーにいた時期が重なっていたからか、ペルーについての話を何人もの方から請われました。ということで、今月の巻頭言は当時のペルーについて少し書いてみたいと思います。

私がペルーに入ったのは 1990 年 6 月のこと、当時のペルーはすでに多くの労働者を日本に送っていた国であり貧しい国でもありました。ペルーの状況をさらに混乱させていたのはテロリズムで、私がペルーで暮らした二年間に、テロの犠牲になって亡くなった人のいない日はおそらく一日もなかったことでしょう。

テロール (terror) とは「恐怖」を意味します。暗殺・暴行・粛清・破壊活動といった直接的な暴力や脅威に訴えるのが、テロリストの常套手段、人々を恐怖に陥れることが目的ともいえます。

ポストレ (Postre) はスペイン語でデザートを意味します。テロリストは「司祭・修道者はポストレ」、つまり、「すべての人を殺し尽くした後に、司祭や修道者を殺す」と公言していました。カトリック国ペルーでは、影響力の大きい教会や司祭修道者を殺害することをテロリストたちは躊躇していました。

しかし 1990 年にオーストラリア人シスターが殺されたのを機に、彼らはデザートに手をつけ始めました。何人もの司祭や修道者が殺されました。それ以上の数の司祭修道者が、脅迫されて国を去って行きました。司祭修道者の葬儀に何度参列したことでしょう、参列者の中にもテロリストが潜んでいる…、どこかからじっと様子を伺っている…、そんな恐れが誰の心にもありました。

たくさんのダイナマイトを乗せた車をコーチェ・ボンバ (Coche Bomba) と呼びますが、テロリストは、官公庁や警察、教会の前に駐車させたコーチェ・ボンバによって破壊活動を頻繁に行っていました。象徴的なのは夜、送電線の鉄塔を爆破するというものでした。その結果は停電であり暗闇です。暗闇の中に置かれた人々の心には恐怖心が生まれます。

聖書は光に始まります。旧約聖書の創世記は、はじめに地を覆っていたものが混沌であり闇であったこと、それに対抗するかのようには神は「光あれ」と光を創造したことを記しています。この一言によって世界が始まり、この一言によって神の働きが始まって行きました。

紙面の都合上、今回はここで筆をおきます。



南米大陸に位置するペルー共和国(赤い部分)

2025年度 第2回 地区役員会議事録(要約)

日 時：2025年6月8日(日) 12:00～13:30

場 所：第1、2会議室

出席者：加藤主任司祭、地区役員

1. 報告事項

- 1) 「地区会の今後を考える」アンケートについて(提出期間：5/31[土]～6/15[日])
6/29(日)に地区会再編プロジェクトチームがアンケートをまとめる。
7/6(日)地区交流会にてアンケートのまとめをベースに意見交換を行い、地区役員が地区役員会(7/20[日])にて信徒の意見を報告することとする。

2. 検討事項

- 1) 堅信のお祝い会(6/15[日] 10時ミサ後) 予算8万円(小教区評議会負担)
堅信のお祝いを受ける人は7名。小教区評議会が主催、地区会が料理を準備する。
地区役員は9時集合、井川が取りまとめを行う。
飲み物はソフトドリンク中心、サンドイッチ、果物、お菓子を準備する。
2023年度の堅信のお祝い会は教会全体でお祝いをする会にもかかわらず出席者が少なかった。
ミサ後、お祝い会開始前に参加の呼びかけをする。
- 2) 新受洗者・転入者説明会 6/22(日)10時ミサ後
 - ・現時点の参加者8名(6/7締切)
灘北1未定、灘北2:1名(受洗者)、灘西・中央:3名(1名受洗者、2名転入者)
東灘北1:1名(転入者)、東灘南:2名(受洗者)、神戸西:未定 阪神:1名(転入者)
全出席者数(受洗者、転入者、地区役員、説明者)20名～25名
出席が確定している地区役員は説明会に参加のこと。
未確認の地区は6/15に最終出欠を連絡する。
 - ・軽食の準備は壮年会が実施。

説明会の内容

- ・教会ツアー：説明会の最初に教会ツアーを実施する
 - ・主任司祭挨拶
 - ・六甲共同体の説明
 - ・活動グループ紹介：炊き出し、ともしび会、手芸、聖歌隊
 - ・地区紹介と分かち合い：受洗者、転入者が各地区役員と同じテーブルに着席し食事。
- 3) 地区交流会(7/6[日] 10時ミサ後) 詳細別紙* 地区交流会資料を参照する。
(*当日資料につき、別紙添付なし。)

3. その他

1. イグナチオ喫茶 当番
 - ・7/6地区交流会 ・8/3東灘南 ・9/7灘西・中央 ・10/5東灘北1

次回地区役員会 7月20日(日) 11:30より

《 年次報告会 2025 》

6月8日（日）10時ミサの後、「年次報告会」が行われました。

小教区評議会の堤 福生議長より2024年度活動結果が総括され、2025年度活動計画が発表されました。さらに財務部長兼務の堤さん、施設管理部 本下 稔さんからも報告がなされました。信徒の皆さんの多数の出席がありました。

<p style="text-align: center;">2025年6月8日 年次報告会資料</p> <h2 style="text-align: center;">2024年度活動結果</h2> <p style="text-align: center;">小教区評議会議長 堤 福生</p>	<p>《2024年度の方針》 「シノダリティーの精神を活かしたともに歩む教会とする」</p> <h3>1. シノダリティー(皆で歩む)推進</h3> <p>(1) 「シノダスの集い」の開催</p> <ul style="list-style-type: none">・ 8月25日(日)に実施 <p>(2) 識別方法として「霊における会話」の実践</p> <ul style="list-style-type: none">・ テーマ「自分が教会に望むこと、したいこと」・ 「友人と一緒にいる時間や居場所」を求められる
<h3>(3) イグナチオの霊性に基づく共同体の推進</h3> <p>① 小教区研修会(5月3日(祝))</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2024年度の基本方針を決定・ 具体的な方針1) 身の丈に合った活動と交流2) 大きなイベントから、小さな集い・小さな試み <p>② ハラスメント対応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 10月 ハラスメント委員会の設置・ 1月 「ハラスメント防止対策規定」策定・ 3月 ハラスメント研修会	<p>③ 平和を祈る集い</p> <ul style="list-style-type: none">・ 8月11日(日)ルダシングワ真美・ガテラ夫婦による 「ルワンダ大虐殺から30年～義足を作り続けて」講演 <p>④ 春と秋の黙想会:イグナチオの霊性を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 6回シリーズの3回目(6月、参加92名)と 4回目(10月、参加約50名)を実施 <p>⑤ 霊性研究会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 毎月第4土曜日に開催
<h2>2. 交わりの共同体:年齢別と地区を通して</h2> <p>(1) 教会奉仕者養成講座の実施(5月～2025年1月)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 神戸地区東ブロック(中央、六甲、住吉)養成委員会で実施・ 修了者16名(中央2名、六甲7名、住吉5名、垂水2名)・ 六甲7名「聖体授与の臨時的奉仕者」に任命 <p>(2) 地区会活動の見直し</p> <p>① バザーの見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・ 個人出店(23件)とワークショップ形式(4件)で実施 <p>② 地区交流会の実施(7月7日(日)) ⇒ 160名の参加</p>	<p>(3) 三日月会の役割拡大</p> <ul style="list-style-type: none">・ とりなしの祈りの継続・ 5月15日(水) 総会と懇親会 41名参加・ 9月15日(祝) 敬老の日集い 63名参加・ 11月13日(水) 例会 37名参加・ 3月19日(水) 春の遠足(高野山) 41名参加 <p>(4) 壮年会・婦人会活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ 徳島教会への遠足 10月19日(土) 36名参加
<h2>3. 福音を伝える共同体</h2> <p>(1) 手話付きミサ、子どもとともに捧げるミサの継続</p> <p>(2) 災害時対応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 防災セミナー ⇒ 10月27日(日)実施・ 災害時の実行委員の任命と体制の確立・ 近隣住民との連携強化	<p>(3) 新受洗者・転入者説明会 ⇒ 6月16日実施</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「教会生活のしおり」による説明と「教会案内」ツアー実施 <p>(4) SNSチームの発信</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日曜日10時ミサの説教のYouTube配信とSNSによる情報発信を継続

(次頁につづく)

(前頁からつづき)

(その他活動)

- 周年事業プロジェクトチームの発足
2028年12月8日の80周年の記念誌制作・発行に向けての活動

2025年6月8日
年次報告会資料

2025年度活動計画

《本年度の基本方針》

「交わりの共同体として信徒のつながりを重視した教会とする」

- ② 地区会再編の検討
・地区会再編のWGを設置 ⇒ 地区会の再編を検討
- ③ 三日月会の活動拡大
- 「支え、支えあう」コミュニティーを目指して-
・シルバーの持てるパワーを発揮できる活動の場の提供
・小教区の中での位置付けを明確にし仲間作りの拡大
- ④ 壮年会・婦人会活動
・教会遠足の実施

(3) イグナチオ霊性に基づく共同体の推進

- ① 2025年の聖年
・「希望の巡礼」の推進
- ② 信仰養成の強化
・海外イベント(MAGIS JCAP)への青年派遣
- ③ 堅信式の実施
- ④ 小教区研修会(新旧評議会メンバー合同会議)の実施

2. 地球、環境に配慮する教会へ

- (1) 「すべてのいのちを守るための月間(2025年9月)」に対する
具体的活動の推進
(重点実施項目)
・シンプルなライフスタイルの推進

以上

1. ともに歩み、ともに識別する(「霊における会話」) するシノダ的教会へ

(1) 交わりの共同体としてホットできる場となる教会へ

- ① 小さな集まりの運動の推進
・お茶っこサロン
・映画を見る会

(2) 弱者等に対する福音的配慮の推進

- ① 手話付きミサ、子どもと共にささげるミサの継続実施
- ② 新受洗者・転入者説明会の実施
- ③ 災害時対応
・防災セミナー実施

⑤ ハラスメント防止および対応の推進

- ⑥ 平和を祈る集い
- ⑦ 春と秋の黙想会:イグナチオの霊性を学ぶ
- ⑧ 聖体礼拝の集い
- ⑨ 周年事業の推進

(小教区評議会議長 堤 福生)

【財務報告】

1. 2024年度は、赤字決算でした。
2. 教会活動収入の約50%を占める教会維持献金は、2023年度は前年度比約5%減、2024年度は前年度比約10%減で減少率が増加しています。このまま推移すれば、来年度は更に教会維持献金が減少すると予想されます。また、教会維持献金の減少が、信徒数の減少（毎年約3~4%減）より大きいことから、信徒の皆様のさらなるご協力をお願いいたします。
3. 教会活動支出に大きく影響するのは修繕費であり、今後の建物・設備の老朽化により修繕費がかさむことが予想されます。今後発生する大規模修繕につきましては、特定目的献金等をお願いする必要が生じるのではないかと考えられます。

以上

(財務部長 [兼任] 堤 福生)

【施設管理部 事業報告】

1. 平成6年度事業報告（2024年度決算報告）

施設管理部の費用科目は、庭園維持管理費、小規模補修工事費（以下、小規模工事費）、清掃費、老朽設備更新費、大規模補修工事費（以下、大規模工事費）、備品費、消耗品費、保守管理費、OAリース費、予備費から構成されています。例年、小・大規模工事費以外の支出は概ね同程度で推移しており、昨年度も大きな変化が見られませんでした。小規模工事費（733万円）の大部分は小聖堂とイグナチオホールの雨漏り対策工事費として、大規模工事費（1419万円；年間総支出の約60%）は聖堂排煙窓補修工事費として支出しています。小・大規模工事費の合計は2152万円、施設管理の総支出額は2425万円となり、ともに過去最高の支出となっています。

2. 平成7年度事業計画（2025年度予算）

今年度の予算についても、小・大規模工事費以外の予算は昨年度と同等の予算を計上しています。小規模工事費（700万円）はネットワーク整備工事・信徒会館と信徒会館第2期部3階司祭館の屋上防水シート補修工事・不測の補修工事の発生に備えた予備費、大規模工事費は聖堂屋根塗装・軒樋防水改修工事費として計上しました。不測の小規模工事や老朽設備更新等に備えた予備費および施設管理の全事業に対する予備費を含んだ施設管理の総予算額は2873万円となりましたが、今年度の総事業費は概ね昨年度と同額の2400万円強を想定しています。

3. 緊急雨漏り対策工事

本年の1月に信徒会館2階で、5月末に司祭館3階で激しい雨漏りが発生し、6月初めに詳細調査をした処、両施設ともに屋上防水シートに経年劣化による顕著な損傷が観察されました。主任司祭と財務担当者との協議を経て入梅までに応急措置を施すことが決定され、6月7日に工事を完了させました。ただし、今回工事は緊急の応急措置であり劣化が著しい損傷の根本的な解決策でないため、来年度の初期に本格的な対応が必要です。

4. 中長期修繕計画

聖堂建設から30年が経過し、経年劣化による不具合や補修を必要とする施設が散見されます。あらゆる施設はその機能を持続させるために周期的に適切な補修が必要ですが、下記の施設は顕著な劣化が見られ、かつ近々に標準的な補修周期に至る施設です。今後は他の施設でも同様の現象が生じ、大規模な補修工事が続出することが推測されます。①聖堂および信徒会館の外壁塗装、②司祭館3階および聖堂2階中庭の屋上防水シートの更新、③聖堂エントランス部の舗装。

5. 補修工事費および年間合計支出額の変動

施設管理の直近5年間の補修工事費および年間合計支出額は下表（次頁）の通りです。

2022年度を境に大規模工事費が発生し、全ての補修費が増加しています。2022年以降、小・大規模ともに先送りしてきた経年劣化に伴う防水や改修工事が大規模な支出の中心になっています。

今後の小規模工事費は年間700~800万円、大規模補修工事費は1500万円、合計補修費は2000~2500万円、また、総施設管理費は2500~3000万円程度の費用になることが推測されます。

(次頁に続く)

(前頁よりつづき)

補修工事費の変動

単位：千円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小規模	3,012	60	7,067	5,112	7,330
大規模	0	0	10,000	5,000	14,190
小計	3,012	60	17,067	10,112	21,520
総管理費	5,652	2,374	19,317	14,495	24,253
小規模内容	祭壇ルーバ	空調修理	空調電化	フェンス改修	ホール防水
	聖堂モニター	電話修理		聖堂防水シート	藤棚下整備
大規模内容			鐘楼外壁等改修	バル改修	聖堂排煙窓改修
			鐘楼十字架改修		

(注) *小規模；小規模補修工事費、*大規模；大規模補修工事費、*総管理費；年間の支出合計

(施設管理部 本下 稔)

《聖母マリアの訪問ミニコンサートに寄せて》 5月31日



お話をいただいた時、ミニコンサートまでに日にちがあまりなく、お受けするかどうかとても迷いました。

実は他のコンサートの出演が前日と1週間後に控えており、出演するなら早く曲を決めないとても間に合わないという思いで一杯でした。また体力的に大丈夫だろうかと不安もよぎりました。しかし選曲にあたりオルガニストの松井公子さん(写真右)に相談したところ、絶対仕上げて歌いたいという「アンジェラスの鐘」という曲に出会いました。それが6時12時18時に鳴るお告げの鐘だということを私は初めて知りました。貴方の導きがなければ私たちの動きは止まってしまうという正午(12時)の歌詞は私そのものだと感じました。神に導かれ素直に受け入れることが出来たこと、そして聖母マリアの取次ぎによって素敵な曲に巡り会い、無事コンサートを終えることが出来ました。お聴き頂いた皆様には心より感謝申し上げます。

(フランチェスカ 高山 教子)

教会学校便り 父の日の贈物を手作り



6月の教会学校では、父の日に向けて、子どもたちと一緒にお父さんの顔をかたどったクッキー作りと、手形を使ったメッセージカード作りを行いました。絵の具を手に塗る時には「くすぐったい！」と笑う子もいて、終始にぎやかで楽しい時間になりました。

それぞれが「喜んでくれるかな」とお父さんのことを思いながら、丁寧に作っている姿がとても印象的で、心が温かくなるひとときでした。

**HAPPY
FATHER'S
DAY!**



《東ティモールから浦 善孝神父様をお迎えして》

主の昇天の主日 6月1日（日）には、東ティモールで活動中の浦 善孝神父様をお迎えし、ごミサは加藤主任司祭との共同司式で行われました。そのあと、浦神父による講演会が開かれました。東ティモールは、岩手県と同じくらいの大きさ。2002年にインドネシアから（再）独立を果たしたこの南洋の小国は、135万人の人口のほとんどがキリスト教徒で、19歳以下が52.4%という若い国です。浦神父は2012年にイエズス会から派遣され、東ティモール 聖イグナチオ学院の設立・運営の現地責任者として携わってこられました。六甲教会からの寄付により、勉強を続けることができたという子供たちからは、「人生が変容した」ことへの感謝の手紙が紹介されました。この日は手話ミサの日で、講演には二人の手話通訳士の方がついて、耳の不自由な方と一緒に話を聞くことができました。

・浦神父様からの聖イグナチオ学院に関する報告などは、これまでに本教会報で2023年4月号、10月号、2025年1月号で紹介してきました。また、ブログ〈東ティモール ワ二通信〉で、聖イグナチオ学院や奨学生たちの最新の様子をご覧ください

《堅信式～酒井俊弘補佐司教様をお迎えして～》 6月15日

三位一体の主日、6月15日（日）の10時ミサでは、大阪高松大司教区から酒井俊弘補佐司教をお迎えして、ミサ中に堅信式が執り行われました。加藤信也主任司祭、渡辺徹郎助任司祭との共同司式です。酒井補佐司教はミトラ（司教冠）にバクルス（司教杖）をたずさえ、厳かに入場され、開祭の儀となりました。この日は、「回心の祈り」の代わりに、灌水式が行われ、酒井補佐司教と加藤主任司祭が会衆の間を灌水して回られました。式は、第一朗読、第二朗読と進み、加藤主任司祭の福音朗読後、酒井補佐司教がお説教に立たれ、唯一の神と三位一体の考え方についてお話しされました。そして、いよいよ、堅信の儀に入ります。今年の中2生が4人、中3生が2人で、一人ひとりの名前が呼ばれ、受堅者全員がそろったところで、「洗礼の約束の更新」が行われました。「あなたがたは、悪霊とそのすべての業と誘惑を退けますか。」



「あなたがたは、天地の創造主、全能の神である父を信じますか。」……。5つの問いかけのすべてに正しく答え、これにより受堅者一同の信仰宣言が教会のものとして認められました。また同時に会衆も、堅信の秘跡を受けた子供たちとともに、信仰をあかしする決意を新たにしました。——「あなたがたは、教会の信仰を堅く守り、力強くあかしすることを約束しますか」「会衆：約束します」。

このあと、受堅者たちは、酒井補佐司教に続き、加藤主任司祭、渡辺助任司祭の3人から次々に按手を受け（写真上）、額には十字架のしるしの塗油を受けました。



今回、酒井補佐司教の侍者として、ミトラの受け渡しの複雑なタイミングを落ち着いて間違いなく務めたのは、堅信から2年目の高校1年生でした。

無事に堅信式を終えたあと、イグナチオホールでは、お祝いのテーブルが地区会役員によって、用意されていました。中高生会からは、お祝いの品も用意されましたが、包みの大きさが違うことに戸惑う子供たち。でも、大丈夫、どちらでもありがたい中身は、しっかりとした十字架と、マリア像でした。

（広報部 大上 尚子）

「映画を観る会」に参加して 6月9日(月)

ーみんなと一緒に観る映画は楽しいー

今回初めて妻と六甲教会の映画鑑賞会に参加しました。映画は大画面で、みんなと一緒に観るのは楽しいと、改めて思いました。参加者は約20名、映写時間は約2時間でした。映画鑑賞後は皆さんと会食し、素晴らしい時間を過ごしました。

映画は「こんにちは 母さん」(松竹)。山田洋二監督の人情喜劇です。主人公の吉永小百合がプロテスタントの牧師さんに恋をし、失恋するストーリーを中心に、東京の下町を舞台に物語は進みます。大企業に勤める人事部長役の息子 大泉 洋は、仕事で神経をすり減らし、娘との関係や自身の離婚問題に頭を悩ませている中、久しぶりに実家に帰り、これまでとは違う‘母’に出会い、自分を取り戻す、人の暖かさを描いた物語。

映写中は、笑い声が何度も起こり、みんなで一緒に楽しい時を共有していることを実感しました。映写後の会食の時間は、自己紹介と映画の感想を話し合いました。私自身は、吉永小百合の炊き出しのシーンや、大泉 洋の悩みが他人事ではなく、笑えました。約3時間の鑑賞会は笑顔で終了しました。

映画鑑賞会は第2月曜日10時より開催されます。みなさまと一緒に映画を楽しめたらと思います。

(井川 直哉)

《新受洗者・転入者説明会開催》 6月22日(日)10時ミサ後

6月22日(日)10時ミサ後、六甲教会の新しいメンバーのための説明会が開催されました。

プログラムは、まず教会ツアーからスタートしました。ツアーガイドは小教区評議会から広報部が担当し、主聖堂、小聖堂、ベルタワー、信徒会館などを巡りました。主聖堂では、その横長の形状の特徴や、聖堂内に掲げられている“十字架の道行”のレリーフ、ステンドグラスの隅にひっそり書かれたマタイ福音書5章の「幸い」などについて説明がなされました。そして、イエズス会創始者のイグナチオ・デ・ロヨラや、日本にキリスト教を伝えた、同じイエズス会のフランシスコ・ザビエルの肖像画の由来、教会の守護聖人・無原罪のマリア様の像(信徒会館)など、教会に普段通っている人にとっても、“目からうろこ”の発見がありました。

ツアー後、一同はイグナチオホールに再集合し、加藤主任司祭より「教会にはハードとソフトの部分があります。まず、ハードの部分で教会ツアーがありました。次のソフトの部分の説明で、六甲教会が自分の家だと思えるようになってもらえれば…」とのご挨拶あり、「教会生活のしおり」をもとに、小教区評議会の荏原副議長から六甲共同体の説明がありました。

さらに「聖歌隊」「炊き出し」「ともしび会(児童養護施設の子どもたちへのケーキ作りの会)」「手芸の集い」の紹介を聞きながら、各地区の役員も同席して、壮年会の皆さんが用意してくれたサンドイッチや果物で昼食を頂きました。壮年会の皆さんのご協力に感謝したいと思います。

参加者は、洗礼者・転入者を含め約30名でした。最後は六甲教会の祈りで終了しました。

(地区会 井川 直哉)

社会活動部 今月の予定

7月 2日(水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室

7月 12日(土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)

一緒に車で行かれる方は 六甲教会に10時集合です。

教会事務室に事前にご連絡下さい。

7月 14日(月) 9時半 ともしび会 教会台所(児童養護施設の子どもたちへの

ケーキ作り)(写真は、パイナップルとチェリーのアップサイドダウンケーキ)

7月 27日(日) 10時ミサ後 11:20~ 平和月間に因み学習会を開催 イグナチオホール



私の好きな聖書のことば



「心の貧しい人は幸いなり」 (マタイ 5章 1-12 節)

40年位前、洗礼を授かる前のことですが、知人から誘われて釜ヶ崎の夜回りに同行しました。釜ヶ崎の噂は耳にしておりましたが、到着して車のドアを開けた瞬間の町の匂いは今でも思い出すほど強烈な匂いのする町でした。

寒い冬の夜回りは路上生活者が凍死しないようにと、毛布やカイロ、衣料等を持ち、おじさん達に声をかけながら必要な衣料等を渡して行きます。最後の巡回先、三角公園に着く頃には私の手には配る上着が一枚しか残っていませんでしたので、焚火で暖を取っているおじさんに「すみません！もう夏物の薄い上着しか残っていませんが、良かったら着て頂けますか・・・？」と声をかけました。

おじさんの返事は、「ありがとうございます。みなさんが神様を信じて、私たち仲間にして下さっていることには感謝しかありません。私はこの上着を着てどこにでも出かけることが出来ますよ！」と、手渡した上着を着ながら笑顔が返ってきました。おじさんと目が合ったこの瞬間に、ストンと音をたてるように心の中に落ちてきたのは「心の貧しい人は幸いなり」と言うみ言葉でした。

ここ釜ヶ崎で暮らす人たちは、生活が貧しくて、心は豊かでありたいと願っていても心の豊かさを失っている人達が多いのではと勝手に思い込んでいましたので、この夜の出来事は、感謝の心と笑顔での対応、謙遜な態度を教えられ、傲慢になりすぎていた自分を新たにされたみ言葉となりました。

マグダラのマリア 川越 明美

《 図書室からのお知らせ 》

図書室に入った本

☆ 教会建築家・鉄川与助の生涯 ～同居の孫が見た素顔～ 鉄川ひろ子（著） 海鳥社

長崎五島の教会（冷水・水ノ浦・頭ヶ島…）や天草 崎津教会、今村天主堂（福岡県）…、ド・ロ神父とともに旧長崎大司教館を建て、原爆で破壊された浦上天主堂の再建…。仏教徒として亡くなりましたが、木造・レンガ・鉄筋で多くの教会施設を建築した大工棟梁の話です。

☆ 東ティモール ～独立後の暮らしと社会の現場から～ 福武慎太郎（編著） 彩流社

不自由だが自由/貧しいが豊か/— 農とくらし/伝統経済/儀礼と精霊崇拜/人の移動/地域言語/ナショナリズム/歴史教育/国際協力/平和構築/市場経済/フェアトレード

こんな面白い国があったとは！ おどろきと発見の1冊。この6月に六甲教会を訪問された浦 善孝神父も寄稿されています。

※皆様方の図書室をさらに使いやすくするために、どうしたらよいか、お気づきの点をお知らせ下さい。

図書室入口の投書箱または教会事務室まで。

クリスマス チャリティーコンサート出演者募集

今年も野宿者や生活困窮者のために炊き出しや夜回りなど、さまざまな活動を行っているカトリック社会活動神戸センターを支援するためのチャリティーコンサートが12月6日(土)神戸中央教会で開催されます。それに因み出演者を募集しています。老若男女、音楽のジャンルは問いません。出演を希望されるかたは、内容(1. 所属教会 2. グループ名 3. 代表者名 4. 代表者の連絡先 5. 参加人数 6. 曲のジャンル)を明記し、シナピス神戸 sinapiskobe@yahoo.co.jp へ、8月10日(日)までにお申し込み下さい。

詳しくは、掲示板ポスターの出演申込要綱をご覧ください。

祈りと音楽の集いに寄せて

梅雨明け前の6月22日の午後のひととき、”祈りと音楽の集い”に参加させていただきました。日常の煩いごとに気をとられてばかりで、落ち着いて音楽に接する機会がなかなか持てずにいる毎日ですが、久しぶりに音楽に沈潜する恵みの時を与えられ、感謝です。

何か別のことをしながら音楽を聴く「ながら聴き」に対して、何もせず音楽に集中する「孤独聴き」という言い方があるそうです。今回、ひとりの聴衆者として「孤独聴き」に徹してみて、音についてのある発見がありました。音は外から耳に入ってくるものとばかり思っていたのですが、心の底からせり上がるように伝わってくる音があるという体験です。力強いオルガンと、温かく包み込む歌声は、確かにそういう響きで伝わりました。

普段、礼拝以外でオルガンを聴く機会も少なく、音楽上の技法についてはよく解りませんが、内面的な音の深さに触れて、心震えるような感動と慰めを覚えました。



このひとときに感謝して 平和を祈りつつー (一聴衆 涌井まり子)

炊き出し

毎月第2土曜日は、六甲教会が当番の炊き出しがあります。6月14日は、雨でしたので、小野浜グラウンドの野外ではなく、神戸中央教会の敷地内にあるカトリック社会活動神戸センターの台所でカレー弁当を作り、袋に詰めて小野浜まで運び、取りに来られたおじさんたちに配りました。



晴れた日はたいてい100人来られるのですが、この日は雨のせいか65人しか来られませんでした。

超国宝展見聞 ～百済観音と弥勒菩薩～



切符を買うのに並んで1時間、さらに入場の列に並んで40分。奈良国立博物館の「超国宝展」に行ってきました。ごった返している館内の正面に百済観音（写真左）の優美な姿がすっと立っています。円形の台座の上、光背を含めて3メートル以上の高さに見えました。以前拝観した時よりずっと大きいと感じました。しかも八頭身のスリムなお姿。神々しい蠟燭のように「天上に向かって慈悲の光を立ち昇らせるお姿」と称されています。



ケースに入っていません。台座をぐるりと回って360度の角度から自在に観覧できます。照明がすばらしいせいか、頬をほんのり赤らめ微笑をたたえたような…。でも、何事もなかったように静かに極楽浄土から下りてこられたような顔をされています。ななめ左側から見ると、「おや、意外に鼻が高くかたちが良い」。新しい発見でした。失礼ながら真正面からでは扁平なお顔のように見えていたのです。

そして次の私のお目当ては中宮寺の弥勒菩薩半跏思惟像（写真右）。広隆寺の弥勒菩薩さまと双璧です。漆黒のお身体、もともとは彩色がされていたということですが、年月を経て落ち着いたこの漆黒が何とも言えません。広隆寺の菩薩は、肩のあたりがいくぶん角張っていますが、中宮寺のは、ふくよかに丸みを帯びて美しい。仏さまに男女の区別はないのですが、まさしくマリアさまの印象。弥勒下生（みろくげしょう）という言葉があるそうです。釈迦の入滅後、56億7千万年を経て、弥勒が釈迦の教えを衆生に再度知らせるためにこの世に現れるのだそうで、これを「下生」と言います。イエスは復活しますが、釈迦の入滅後は弥勒が替って「復活」するのですね。

百済観音のお姿はイエスの「山上の垂訓」のイメージです。この場面のイエスは人間の姿で「動」ですが、百済観音は菩薩の姿「静」です。生身の姿ではありません。しかし左手に下げた水瓶（すいびょう）にはお酒が入っているのかも。この水瓶をつまんで立っておられる菩薩にほっとするような親近感を覚えました。

（詔 洋一）

社会活動部主催 《平和月間のイベント》 7月27日開催

大阪高松教区報4月号に記載されていましたが、これまで各小教区において『平和や命』に関するイベントが8月6日～15日までの平和旬間に一斉に開催されていましたが、今年は試行的に期間が延長され、7月と8月が教区平和月間となりました。



六甲カトリック教会で年に一度行われる社会活動部主催の学習会の今年のテーマが『命』に関連するものなので、この平和月間に小教区で開催されるイベントの一つになりました。（次頁も参照）。昨年10月に48年近く冤罪で拘束され死刑判決まで言い渡されたこともあった袴田氏にやっと無罪判決が確定されましたが、今回は福岡事件から冤罪のまま無念にも死刑執行されてしまった西さんのことを取り上げます。命の大切さを平和月間に一緒に考えていただければ幸いです。（社会活動部 井川 伸子）

『冤罪★叫び★命』 — 「福岡事件」から考える死刑 —

日 時：7月27日（日）10時ミサ後 11：20～12：30

場 所：イグナチオホール

講 師：古川 龍樹 氏（熊本県玉名市生命山シュバイツァー寺代表）

カトリック大阪高松大司教区平和月間 2025 《講演会》

平和月間 2025 + カトリック大阪高松大司教区

希望と平和の巡礼者となろう
～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～
Let's be Pilgrims of Hope and Peace
— A path to walk with people who suffer and grieve —

講演会 **ガザとシリアの今から
世界の今後を考える**

8月9日(土) 14:00～16:00 (受付開始 13:30～)
講演後、短い祈りの集いがあります。

六甲カトリック教会 阪急六甲駅から
北へ徒歩約10分

講師 **西谷 文和氏**

ヘルソン 中央市場前で

Radio On The Street

【経歴】
1960年京都市生まれ。立命館大学中退、大阪市立大学経済学部卒業。
吹田市役所勤務を経て、2004年末からフリージャーナリスト。
主にアフガニスタン、ウクライナ、パレスチナ、シリアなどの紛争地取材し、テレビや新聞で
現地情報を伝えている。
テレビ朝日系列「報道ステーション」、「大下容子ワイドスクランブル」、関西テレビ「ニュースランナー」、
インターネットTV「デモクラシータイムズ」など出演多数。
2019年5月から「路上のラジオ」をネット配信している。 <https://www.radiostreet.net/>
著書に『イスラエル、ウクライナ、アフガニスタン』、『西谷流地球の歩き方 上・下』（かもがわ出版）、
『お笑い維新劇場』（平凡社新書）、『行ってはいけない大阪危険万博』（せせらぎ出版）などがある。

事前申込みは不要、どなたでもご参加ください。
【お問い合わせ】六甲カトリック教会 ☎ 078-851-2846

大阪高松大司教区で今年、試験的に「平和旬間」から、「平和月間」へと名称を変え、従来の平和旬間で行われていたイベントだけでなく、期間を広げて7月、8月に行われる、盛りだくさんなイベントに対応できるようになりました。

8月の集いは、ジャーナリストの西谷文和さんをお招きし、ガザとシリアの現状を聞き、世界平和を考えます。

日時：8月9日（土）14時～16時
会場：六甲カトリック教会 主聖堂
講師：西谷 文和氏

- ・事前の申し込みは不要です。
どなたでもご参加ください。



カトリック大阪高松教区平和月間 2025 《平和を祈るテゼの集い》

日時：8月30日(土)、19:00(18時ミサ後)
会場：六甲教会主聖堂

六甲教会では平和月間行事（大阪高松大司教区）のひとつとしてテゼの集いを開きます。テゼの歌とは短い歌詞を繰り返し歌う祈りです。戦争・紛争が絶えない世の中であって、テゼを歌いながら平和のためにも祈りましょう。



希望と平和の巡礼者となろう
～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～
Let's be Pilgrims of Hope and Peace
— A path to walk with people who suffer and grieve —

六甲カトリック教会 大阪高松大司教区
平和月間行事

**平和を祈る
テゼの集い**

Taizé Prayer

主催：六甲教会
担当：渡辺神父
協力：音楽チーム

8月30日(土) 19:00-19:40
(18:00ミサ後)

場所 六甲カトリック教会 主聖堂
(神戸市灘区赤松町3-1-21)

対象 どなたでも (事前申込不要)

テゼとは短く単純な歌詞を繰り返し歌う祈りです。
世界平和を願いながらともに歌い、祈りましょう。



地区交流会開催 7月6日(日)10時30分後

各地区それぞれの部屋に集い、信徒の交流を図り親睦を深めたいと思います。

多くの皆様、ぜひご参加下さい。

サンドウィッチ、お菓子、ソフトドリンク、ビールは教会から提供。

(ビールだけは有料) 軽食の持ち寄り大歓迎

各地区の部屋割

・灘北1・北・三田	イグナチオホール
・東灘北2・芦屋	イグナチオホール
・灘南・神戸西	第1会議室
・灘西・中央	第2会議室
・東灘北1	第3会議室
・灘北2・阪神	第4会議室
・東灘南	信徒会館

六甲教会のアカンサス

園芸系の仲間に入れていただいで2年近くになりますが、教会を訪れる方々が花壇の植物を楽しんでくださっているのを嬉しく感じています。花壇は季節ごとに苗を植え替えたり、手入れをしたりしているのですが、教会には花壇以外にも魅力的な植物と出会える場所があります。用事がないと足を運ばない場所なのであまり知られていませんが、信徒会館東側の通路や、藤棚の南側のスペース、駐車場を取り巻く植木の下などです。球根が眠っていたり、種がこぼれたりして毎年姿を見せてくれて可愛い花を咲かせたりします。

アカンサス(キツネノマゴ科、ギリシャ国花)(写真上)は30年以上前、まだ旧聖堂があった頃に園芸係をされていた方が植えられたもので、今では教会のあちらこちらで見ることができます。六甲教会のシンボルとも言える植物です。濃い緑色のぎざぎざした切れ込みのある葉っぱが特徴で、6~8月の花を咲かせる時期には150cmを超える高さになります。古代ギリシア・ローマ時代から建築物や内装のデザインに使われたり、ウィリアム・モリスのデザイン(写真下左)に使われたりしてきました。特に柱の上部、柱頭の装飾にはアカンサスが彫刻されているものがたくさんあります。サンピエトロ大聖堂の柱頭部分にもアカンサスが彫刻されています。丈夫な植物なので古代から繁栄の象徴として好まれてきたようです。私はこのことを施設管理部の建築士の先輩に教えていただいたのですが、注意してみると日本でもアカンサスのデザインが使われていることに気づきました。元町大丸の東側には三菱銀行三宮支店があった場所に当時の建物の柱頭部分(写真下右)が今も記念に展示されているのですが、これにもアカンサスの



葉がデザインされています。南海難波駅の柱頭部分もアカンサスの形でした。先輩は建築史の授業で、初めにアカンサスについて習ったそうです。建築科がある大学の先生が「六甲教会にはアカンサスがある」とわざわざ見に来られたこともあるとか。大きな植物だからか、なかなか庭に植える家もないようで、身近で見られるのはめずらしいみたいです。今年も元気いっぱい花を咲かせているアカンサス。ぜひご覧ください。

(施設管理部園芸係 滝井留都子)

【2025年7月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		福者ペトロ 岐部司祭と 187殉教者		聖トマス 使徒	初金ミサ 7:00 10:00 ◎東灘北1	
6	7	8	9	10	11	12
年間第14主日 手話付きミサ 10:00 地区交流会 10時ミサ後 小教区評議会準備会 14:00					◎東灘北2・ 芦屋	典礼部会 10:00 教会学校終業式 社会活動部 炊き出し
13	14	15	16	17	18	19
年間第15主日 小教区評議会 11:30 侍者錬成会 13:00					◎東灘南	
20	21	22	23	24	25	26
年間第16主日 地区役員会 11:30 侍者錬成会 13:00	教会事務 室休み (海の日)	聖マリア (マグダラ の)			聖ヤコブ使徒 ◎定期清掃	
27	28	29	30	31		
年間第17主日 子どもと共にささげるミサ 侍者任命式 10時ミサ中 ◎日曜班				聖イグナ チオ・デ・ ロヨラ司 祭		


◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）

【編集後記】

- ◇今月号はついに14頁に。旺盛な教会活動に比例して教会報もページ数が増えます。
- ◇堅信式の際、酒井補佐司教さまの頻繁に行われるミトラ（司教冠）の着脱に興味がありました。動きにそれぞれ意味があるようで堅信の重みを今更ながら感じました。
- ◇トランプの一喝で、イスラエルとイランはとりあえず停戦となったようですが、まだ流動的です。そしてウクライナは？ ガザは？・・・平和旬間が平和月間に上げられたように、私たちの平和への願いはより広くそして真剣です。

(N.O.)

(Ver1.1)

<p>次回8月号の発行は8月2日（土）の10時半からです。原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールをお願いします。 (renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 ・教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラム、X（旧ツイッター）で配信しています。 「六甲カトリック教会」で検索してみてください。 ・丹精込めた教会のお庭の花の紹介が加わりました。 毎月の教会報はホームページではカラーでご覧になれます。</p>	<p>六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 加藤 信也 編集 広 報 部</p> 
--	--